

乳がん体験者がサロン

一般社団法人らふ（大阪府泉佐野市）は5月29日、同市内で設立記念パーティーを開催。がん患者のサポートに加え「生きるために困らない地域を作る」を理念に活動を開始する。当日はがん患者、医療者ら関係者が集まった。



(社)らふ
蓮尾久美
代表理事

介護アドバイザー 「お節介士」育成も

「らふ」は乳がん体験者の蓮尾久美代表理事が一昨年結成。

患者会などで乳がん患者のサポートを続けてきたが今年5月、一般社団法人として新たなスタートを切った。蓮尾代表理事とともに、看護師・助産師の南孝美氏、介護者ネットワークを組織する柴本美佐代氏の3名が、がん患者・家族・介護者などに学ぶ場・語る場を提供している。

活動の場としてマンションの

1室をサロンとして活用。ショールームの機能を兼ね備え、カタログやネットで見られな

いがん患者の生活に必要なウィッグや下着、パッドなどを展示。サロンでは「茶話会」や「相談

日」も設けている。茶話会は乳がん体験者が乳がん患者や家族と対話する場。「乳がん患者独身者の茶話会」、がんの種類を問わない「男性患者の茶話会」などを定期的に実施している。

「相談日」には病気や健康について、看護師の南氏が市民や

患者サポート 「茶話会」「相談」実施

患者の悩みを聞く。サロンの利用料は1回500円（お茶菓子代、光熱費など）。

また同サロンでは柴本氏が代表理事を務める一般社団法人日本エルダリーフ協会主催の「お節介士養成

講座」を開催。医療や介護のこゝと、制度の利用、家族の問題について必要な情報を提供できる専門家を養成する。

「一般的な患者会では患者のサポートに限界がある。様々な立場の人が集まることで、必要な時、必要な人に、必要な情報を提供できるような組織にした」（蓮尾代表理事）。

同法人は8月8日、りんくう総合医療センターで市民講座を

開催。蓮尾代表理事と南氏のほか、宝塚大学看護学部溝口全子特任教授が「末期がんの父をがん患者である私が自宅で看取った理由」を講演する。